東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

2024年8月発行

vol.29

かわずみ家

はちすは　よろずの草よりもすぐれてめでたし　　枕草子

旧河澄家 指定管理者 株式会社アスウェル

展示・イベントのご案内

展示・イベント

「お膳が語る食文化 - 昔の道具展 2024 -」
2024 年 5 月 18 日（土）～ 2024 年 9 月 23 日（日）

「立体切紙キリッタイ Kirittai 展」
2024 年 7 月 27 日 (土) ～ 2024 年 8 月 25 日（日）

「理科モノづくり教室 空飛ぶものを作ろう」
2024 年 8 月 3 日（土）

「細密切り絵展」
2024 年 8 月 30 日（金）～ 2024 年 9 月 23 日 (月・祝)

「論語の素読会」
毎月第 2・第 4 土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。

かわすみ家

2024 Augus. vol. 29

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 お膳が語る食文化 - 昔の道具展 2024-

河澄家所蔵の「膳」と江戸時代の食文化について展示解説

06 日下の噺 石切場跡と石材産業

日下地域で継承される石材産業の技術と伝統

08 イベントレポート

春季ハイキング
郷土の歴史講座
端午の節句工作体験＆コンサート
生駒山自然観察ハイキング
古民家で手作り和菓子体験
マジックショーとマジック体験

10 Pick Up

旧河澄家の装飾具展
やさしい暮らし 昔にならう ―蓮に思いをよせて―

12 イベントカレンダー

旧河澄家の自然

原始蓮咲く

蓮 / ハス、はす、はちす

一輪め 蓮開花

茎が分厚くなった花托　蓮の実から種

ハス科ハス属

旧河澄家の近くにある蓮池（井上家所有）に咲く原始蓮の種を 2019 年 4 月にいただき東庭隅にてスタッフで育てています。花を観るまでは 3 年かかりましたが、2022 年 2 輪、2024 年 4 輪咲きました。昨年に続き、観測史上最も暑い夏になりましたが、儚くも美しい蓮の花をお楽しみいただきました。

種から育ててみませんか。種まき編

①種皮が硬いので水分を吸収しやすくするために殻にヤスリ等で傷をつけます。（丸みのある部分）②日当たりのいい場所を好みます。コップのお水は濁ってきたらきれいに③ 10 日くらいで小さな葉が観察でき、1 カ月で 3、4 枚に、いよいよ植え付けです。

昔の道具展 2024

お膳が語る食文化

（図９）
宗和膳の
漆塗り

平成二十九年に旧河澄家の蔵を展示施設として改装し、ほぼ毎年五月頃から十月頃まで民具の展示をして、蔵を開放しています。所蔵する約千二百点の民具の種別は、衣食住をはじめ生業、運搬通信、団体生活、儀礼、信仰・行事、装飾・趣味など多岐にわたっております。

本年度は「お膳が語る食文化」と題し、旧河澄家所蔵の「膳」を中心に展示して、以外はパネルにて紹介致します。

「膳」とは現在では食事を載せる台を指しますが、中国語では食事を指します。本稿では時代に関わらず食事を載せる台を「膳」に統一して紹介致します。

「膳」という漢字は、中国の後漢に成立した『説文解字』によれば、「具食也」とあり、お供え物の食事を意味しました。ご飯を一ぜん、二ぜんと数えるのは、その名残となります。この漢字が日本に伝わり、少なくとも五百年程後の平安時代に成立した『紫式部日記』（十一月一日　誕生五十日の祝儀）では「西によりて、大宮の御膳、例の沈の折敷、何くれの台なりけむかし。そなたのことは見ず。」（その西側寄りに中宮様の御膳は例によって沈浅香の折敷に何とかの台であったろう。そちらのことは見ていない。）と、食事の「膳」と食事台の「折敷」※を使い分けています。

※折敷（図１）＝片木（へぎ）を四方に折り曲げて縁とした食事台。素木づくりが漆塗りとなり、やがて近世に入ると足付きの足打折敷（図２）が登場する。

今日のように食事を載せる台と呼ぶのは江戸時代に入ってからの事です。江戸中期（一七一二年）までに成立の『和漢三才図会　巻三十一　庖厨具』には「而今食机ヲ呼ンデ折敷ト為シ、又膳ト称（となふ）る者（は）甚だ誤也膳者（は）飲食兼備ノ総名也」とあり、食事を載せる机は折敷と云うのであって、膳と云うのは誤りであると、その誤用が指摘されています。

今回展示の（図２）が納められていた木箱の墨書には「宝暦七　丁丑年五月　利休形　溜塗膳」（図３）とあります。宝暦七年は一七五七年で和漢三才図会の約四十年後になります。形状は足打折敷ですが、「膳」と銘々されています。更に七十年後の天保八年（一八三七年）起稿の『守貞謾稿　後集　巻一　食類』の項では「三方の膳」と題して各種のお膳が紹介されています。食事台をお膳と呼ぶ事が定着したことが解ります。庶民の間に急速に発

（図１） 折敷

（図 2） 足打折敷

（図 8） 蝶足膳

（図 4） 木具膳

（図 3） 図２の墨書

（図 5） 図４の墨書

（図 7） ６の墨書

（図 6） 木具膳

達したため、日本語の揺れが生じたと考えられます。今回の展示でも、形は木具膳（図４）若しくは折敷（図２）ですが、「吸物膳」・「日光膳」・「夜食膳」とそれまでに無かった銘々が為されています。この「木具膳」については、足高なれど、細工の少ない片木を貼り付けたのみ、漆塗りではなく、渋などの上に透き漆を塗った春慶塗と、安価に仕上がっています。格式はお祝い用ほど高くはないけれど、足高ですので日常の上席用の膳と考えられます。守貞謾稿には「粗製なれど貴人にこれを用いる」と記されています。

食材ばかりではなく器そして「お膳」までもが、料理に彩を添え、美味しく戴ける事を知っている、江戸時代の人々の生活を楽しむ探求心には感心いたます。

今回展示のお膳には、どんな料理をどのように盛りつけましょう。想像しながらご覧戴けましたら幸甚に存じます。

よもやま話をひとつ

江戸時代に入り、お膳の種類は急速に増え、形だけで分類する事が難しくなります。今回の展示では形状を優先して紹介しております。

（図４）は、納められていた木箱の墨書は（図５）でしたので、木具膳としました。がしかし、先に紹介の（図２）が収められていた木箱の墨書は（図３）の通り、「利休形　溜塗膳」とあり、「膳」とありますが、折敷に付く足が膳よりも低く、塗りが透け塗りの溜塗でしたので、今回は「足打折敷」としました。また、（図６）も木箱は（図７）の通り「日光折敷」でしたが、足の形状、塗りが透け塗りでしたので「木具膳」としました。

あくまで独断デス　。

贅をつくし、格式高い、蝶足膳（図８）、宗和膳（図９）の漆塗りと、普段使いの足打折敷・木具膳（家の上席用）にも塗りが施されますが、漆塗りにまではいかなく、下地が無い木目が透ける透け漆の春慶塗（図１０）や溜塗が施されます。見比べながらご覧ください。

（図 10） 木具膳の春慶塗

—歴史コラム—

日下之噺

しさかのはなし

豊かな自然と文化の街、日下

生駒山麓〜日下地域、河澄家の過去から現在に至るまでのおはなし

石切場跡と石材産業

近鉄石切駅から北東の方角に向かい旧生駒トンネルの横を通って生駒山ハイキングコースの一つである「日下コース」を登ると、こぶしの谷の手前、標高約四百m付近に「石切場跡」が左手に見えてきます。この石切場跡からは、かつて日下地域の重要な産業の一つであった石材が切り出され、ソリにのせられた石材は牛や人力で引かれて麓の町まで運ばれていました。

昭和三六年の枚岡市による調査では日下町には三十〜四十戸の石材業者が、生駒山頂上付近を中心に採集される生駒石・日下石の販売・加工、及びそれに付随する造園に従事していました。

石切場跡　日下コースより

『生駒山地の人文地理』「生駒石・日下石」（昭和三六年、大阪教育図書株式会社、藤岡謙二郎編、森田敬一著）によると、「生駒石はクロミカゲと呼ばれる閃緑岩（せんりょくがん）で、その黒い色合いに渋みがあり庭石として重宝されています。生駒石には黒くて重い鉄やマグネシウムの含有量が多い鉱物が多く含まれ、無色鉱物の含有量が少ない硬くて黒い石で、生駒山山頂付近を中心に分布している」としています。生駒石の石質については、閃緑岩、斑れい岩、黒雲母花崗岩などの分類例がありますが、それらは共にマグマが地下深くでゆっくりと冷え固まった深成岩の一種で、角閃石・黒雲母・輝石などの有色鉱物と、斜長石・石英などの無色鉱物を含み、閃緑岩が有色鉱物の量を３０〜４０％含むのに対して、斑れい岩は４０〜７０％含み、色が濃く重い組成になっています。

日下石は花崗岩の一種で、生駒石より軽く、多少軟質なため加工に適し、生駒石とは全く異なる用途を持ち、石垣石、礎石、踏石、沓脱石、燈籠等の装飾用とされ、表明の苔の成長も早く、各地で珍重されています。ちなみに花崗岩も深成

生駒石（東京・清澄庭園）

石切場跡　斜面

石切場跡への行き方（日下コース）
出典：東大阪市内のハイキングコース

岩の一種で、有色鉱物の量は１０％程度　となっています。

この地域の石材産業の歴史を辿ると、奈良時代に行基によって建立された石凝院（いしごりいん）まで遡ることができます。行基は東大寺の造営に力を尽くし、大僧正に任じられたことで知られる高僧で、『続日本紀』は行基による四十九院の一つである石凝院という寺院が日下村に建立されたとし、昭和三六年の発掘調査で現在の日下墓地の南方で建物基が瓦等と共に出土しています。寺院の名前のとおり石を凝らす（こらす：加工する）ことを専門とする職人集団を想起することができます。石凝院は生駒山から採集した石材を加工する職人集団を背景に設立されたのではないかと考えられています。

また桃山時代には豊臣秀吉の大阪城築城に際して善根寺に拠点を置く足立家が中心となり、生駒山の石材を採石して麓の恩知川まで牛車で運び、そこから剣先船に積んで大阪まで運んでいました。善根寺町には大阪城の築城用に切り出されて使われなかった大阪城残石が残されています。その後、江戸時代を経て明治に入って日下地域の石材産業は次第に発達し、戦前には一〇〇戸～二〇〇戸を上下する数の石材事業者が従事していたといわれます。山間の道路の整備と相まって牛車からオート三輪、さらにトラックへと運搬力を拡大し、その多くは採集地から需要家へ直送することで需要を伸ばしてきました。

戦後は、採石地が風致地区となって採石制限を受けたことや、社会環境が戦前のように立派な庭園を造る傾向が少なくなり需要が低下したことから、生駒山の石を切り出す量は少なくなってきています。この状況の中で地域の石材産業は大和の柳生や伊賀上野方面まで採石地を拡げる一方で、岡崎の三州石、諏訪野鉄平石、京都の鞍馬石、吉野川の五色石など様々な地域から採集された石材を移入しそれぞれの特徴に応じて加工販売を行っています。石材業はその性格上、庭師と密接し庭師を介して販売されるケースも多く、京阪神地域の造園業者との協業で事業を盛り立ててきました。

日下地域の石材産業は、古代からこの地域で継承される技術と伝統を今も守り続けています。

大坂城築城残石（善根寺町）

行基像（霊山寺）

石凝院跡石碑（日下墓地）

石材業者の庭先2

出典：枚岡市史第一巻第三節石材業　昭和42年

石材業者の庭先1

出典：『生駒山地の人文地理』昭和36年
大阪教育図書、藤岡謙二郎編

旧河澄家にて開催しましたイベント＆展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

春季ハイキング
二〇二四年四月七日（日）開催

当館の恒例行事となった春季ハイキングが川向章介氏のガイドにより行われました。今回は石切周辺の史跡を巡るコースということで、近鉄石切駅から南方面に爪切地蔵やみちしるべを経て石切劔箭神社上之社などの史跡に行き、そこから西に向かって千手寺、夫婦塚古墳、神並小路地蔵、石切劔箭神社、藤地蔵を、夫々の史跡に関する由緒や歴史などガイドの説明を聞きながら巡りました。春季ハイキングの参加からは、「近くに住んでいながら知らないことも色々あり勉強になった」「いつも散歩しているコースなのに見落としていたところもあり大変有意義だった」「気候も良く距離もちょうど良かった」などの意見をいただきました。天候にも恵まれ、桜の花が満開の春の史跡巡りコースを存分に楽しんでいただきました。

石切神社上之社

夫婦塚古墳

郷土の歴史講座 古事記をよみとる
二〇二四年四月十四日（日）開催

長年郷土史を題材にしてまちづくりを展開する近つ飛鳥政経研究会会長田仲基一氏による郷土の歴史講座を開催しました。今回で三回目となる郷土の歴史講座では「古事記をよみとる」と題して、民族神話としての古事記が日本人の源流としてどのように私たちの価値観に影響を与えているかについて、大きな文字と写真で理解しやすいスライドを使って、ラジオ番組でも評判の軽快な聴き手を引き込む語り口調でお話しをいただきました。参加者からは「本当に楽しかった。日本中の色々な神社を訪ねてみたくなった」「古事記にかくされた新しい見方が分かりとても良かった」「織姫伝説をテーマに当地との関係のある話はロマンに溢れ、壮大で興味深かった」などの意見をいただきました。

歴史講座風景　主屋にて

端午の節句工作体験＆コンサート
二〇二四年四月二十一日（日）開催

端午の節句展では、鯉のぼりや五月人形、そして江戸時代から河内地方で飾られていた節句幟を展示しました。期間中に開催しました端午の節句工作体験では、紙に印刷されたパーツを切って組み立てるペーパークラフトによる鯉のぼり飾りを作りました。予め用意された木の台に紙ストローのポールを立て、そこにカラフルな吹き流しや真鯉、緋鯉、子鯉の紙で組み立てたパーツを巻き付けて完成です。また岸和田を中心に活動する音楽グループであるアンサンブルビバーチェによるコンサートでは、ミッキーマウス・マーチなどの子供向けの音楽や紅蓮華などのヒット曲、そしてこいのぼりやせいくらべといった子供の日メドレーに加え、曲当てクイズも楽しめて、端午の節句の季節を感じられる楽しいコンサートとなりました。

端午の節句工作体験

演奏：アンサンブルビバーチェ

生駒山自然観察ハイキング

二〇二四年五月五日（日）開催

今回で二回目となる生駒山自然観察ハイキングでは、昨年のぬかた園地アジサイ園探索に引き続いて東大阪市山地保全協議会副会長清水満氏のガイドにより、枚岡神社鳥居下から出発し神津嶽コースからなるかわ園地つつじ園を訪ねました。毎年ゴールデンウィークのこの季節には、なるかわ園地つつじ園で「つつじロード」と呼ばれるヒラドツツジの花が見頃を迎えます。つつじ園に向かう途中には枚岡神社創祀の地である枚岡神社神津嶽本宮に参拝し、また枚岡山展望台では大阪平野を一望できる絶景を楽しみました。「つつじロード」では、管理道のS字になった部分の段丘一面にシリンダー状に刈り込まれたツツジが造成されて連なり、道の両側に広がる色とりどりのつつじの花の道を写真を撮りながら好天の休日を存分に楽しみました。

見頃を迎えたヒラドツツジ

なるかわ園地 つつじロード

古民家で手作り和菓子体験

二〇二四年五月十九日（日）開催

第三回目となる今回もこれまでに引き続いて東大阪の「菓匠庵 白穂」店主 新澤貴之氏を講師にお迎えし、練り切り細工で季節の花2種、サツキとボタンをモチーフとした手作り和菓子の体験会を第一部と二部に時間を分けて開催しました。

体験会では講師の指導により色分けされて別々に用意された練り切り餡を丸めたり伸ばしたり重ねたりして形を整え、花びらの筋を付けるなど細部を細工して完成して行きます。参加者からは「初めての体験で楽しかった」、「きれいな形作りが少し難しかったけど、うまくできて嬉しかった」などの声が聞かれ、日本の伝統的な食文化に触れる良い機会となりました。

新澤貴之氏に教わる人気の和菓子体験

サツキとボタンの和菓子完成

マジックショーとマジック体験

二〇二四年六月九日（日）開催

東大阪市を中心にボランティアで、マジックショーやバルーン体験を各地で開催し、二〇二一年二月で出演五千回を目指して活動中のまぎーマモル氏によるマジックショー公演とマジック体験を開催しました。マジックショーではまぎーマモル氏とその一座の皆様による色々なマジックを披露してもらいました。またマジック体験ではトランプを用いたマジックを各人持参したトランプを使って教えてもらいながら自分でできるようになるまで試してマジックを体験しました。参加者からは「全部のマジックのタネがわからなかった」「マジックも見るだけでなく体験できて楽しかった。練習したマジックを学校で披露したい」という意見が寄せられ、普段できない体験を楽しんだ一日となりました。

トランプのマジックに挑戦！

マジックショー公演 主屋にて

旧河澄家に伝わる 装飾具展

この度、六月八日（土）～二十三日（日）に企画展示「旧河澄家に伝わる装飾具展」を開催致しました。

河澄家は、江戸時代、この地にあった「日下村」の庄屋を代々務めた家でした。現在、河澄家所蔵の民具は約千二百点あり、衣食住をはじめ茶道や楽器といった趣味の道具など、多岐にわたります。表具は例え無くても命に係わる物ではありませんが、豊かな生活のためには欠かせません。

徒然草では、住居のつきづきしき物として庭の手入れが、わざとらしくなくて「うちある調度も昔おぼえてやすらかなるこそ、心にくしと見ゆれ」（さりげなく置いてある道具類も古風な感じがしておだやかであるのは、奥ゆかしく見える）と紹介され、悪い例として、「多くの工の心を尽くしてみがきたて」、「珍しく、えならぬ調度ども並べ置き」（多くの職人が技を尽くして、得も言われぬ珍しい道具を並べた家は）見た目も不快でやるせない。さらには、家の主人の気持ちや人柄などが推測できるものだ、とまで言い切っています。

同じ贅を尽くすにしても、高価な貴金属類を並べるだけではなく、訪れては数か月で立ち去ってしまう季節をも「おもてなし」の心で迎える事こそが、自然との調和となり、住む人や訪れる人の心に和みをもたらしてくれます。

今回は屏風・掛け軸を中心に十四点をご覧戴きました。築三五〇年の古民家にて各装飾具を紹介する今回の展示では、説明パネルを畳の上に直置き致しました（図1、2）。

お越しの皆様方は各展示の前に座ってじっくりご覧になっておられ、まるで亭主の河澄家当主と正客の皆様方が語り合っているかのように見受けられました。

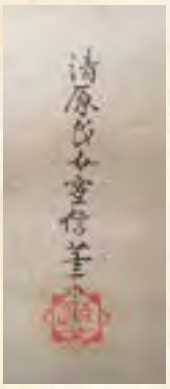
一つの謎が残りました。展示の掛け軸、清原雪信筆の「文殊釈尊普賢三幅対」（図3）の納められていた木箱蓋裏の墨書には、「甲申　宝暦一四年三月二〇日」（図4）とありました。甲申（きのえさる）宝暦一四年は西暦一七六四年です。しかし描いた清原雪信氏は寛永二〇年（一六四二）に生まれ、天和二年（一六八二）に泉下されています。掛け軸と木箱の落款を比べても素人目ですが違う筆のようです（図5、6）。つまり軸が描かれてから今の箱に納められるまで少なくとも80年以上の時を経てこの箱に納められ、現在に至ります。一体どんな物語を過ごしてきたのでしょう。叶うならば、描かれた御三方に聞いてみたく、それは言っても詮無い事。一つの展示の終わりは、また新たな始まりとなりました。

（図1）　手前「六曲一双花鳥図屏風」
奥「二曲屏風　鶴の絵」

（図2）　手前 扁額「棲鶴楼」
奥 掛け軸「閑翁称太虚之號之詩」

（図3）掛け軸「文殊釈尊普賢　三幅対」

（図4）「文殊釈尊普賢 三幅対」木箱蓋 裏書



（図5）掛け軸「文殊釈尊普賢 三幅対」木箱蓋 表書
（図6）掛け軸「文殊釈尊普賢 三幅対」落款拡大」

やさしい暮らし　昔にならう

蓮に思いをよせて

はちすは
よろずの草よりも　すぐれて
めでたし　（枕草子）

万葉時代の蓮

万葉集に
「ひさかたの
雨も降らぬか
蓮葉（はちすば）に
溜まれる水の玉に似たる見む」
（巻十六―三八三七）と詠まれています。歌の詞書によれば、酒食を用意して役人たちをもてなす事があり、ごちそうはすべて蓮の葉に盛りつけていました。酒宴がすすむと、『その蓮の葉に懸けて歌を作れ』と言う人がいたので、即座に応えてこの歌を作ったようです。水玉が光っている蓮は美人を表し、そんな女性が居てくれたらもっと良いのにという意味になります。日下では有名すぎる「日下江の　入江の蓮花蓮　身の盛り人　羨（とも）しきろかも」の歌と同様、蓮は恋の仲立ちをつとめていたようです。

来世への縁となる蓮

やがて平安時代に入り次第に仏教色が強くなります。
『枕草子　第六十四段』に「蓮葉、よろづの草よりもすぐれてめでたし。妙法蓮華のたとひにも、花は仏にたてまつり、実は数珠につらぬき、念仏して往生極楽の縁とすればよ。また、花なき頃、みどりなる池の水に紅に咲きたるも、いとをかし。翠紅翁とも詩に作りたるにこそ。」とあります。（蓮の葉はどんな草よりも素晴らしいと思います。法華経のたとえにも使われ、花は仏様にお供えし、実は数珠にし、念仏して極楽往生への足掛かりとします。夏の花のないころに緑の池の水に赤く咲くのがきれいです。「翠扇紅（すいせんこう）」という漢詩に詠まれているのを思い起こさせます。）

美しく咲く蓮の花　日下の蓮池

翠扇紅とは和漢朗詠集に納められている詩で「風荷の老葉は蕭条として緑なり。」（風に吹かれてゆれるはちすの古くなった葉には、もの寂しく緑色が残っている。）
当時は中国にならって、藕（はす）→（蓮の根）、荷（はす）→（蓮の茎、葉柄）、蓮（はす）→（蓮の果実）、的（はす）→（蓮の種子）と使い分けていました。（倭名類聚抄より）
蓮は恋の仲立ちから、現世を超えた魅力に人は引き付けられるようになります。
枕草子は中宮定子の落飾（出家）以降に成立、華やかな宮廷生活を振り返って綴られています。定子はやがて亡くなります。「蓮葉～」の段を書いた頃、中宮定子が存命であったどうかは推測の域を出ませんが、やはり・・・と考えてしまいます。
蓮は早朝より咲き始め、午後には花を閉じ、数日後には散り落ちます。旧河澄家の蓮は株分けして三年目に開花（令和四年）、昨年は残念ながら咲かなかったのですが、今年は見事に開花いたし、多くの方がご覧になり、その香りを楽しんで戴きました。可憐ではかない姿が来年も見られる事を祈って止みません。
因みに先にご紹介致しました枕草子第六十四段には「沢瀉（おもだか）は、名のをかしきなり。心あがりしたらむと思ふに。」と、沢瀉を採り上げています。沢瀉は旧河澄家の家紋なのですが、清少納言は顔を上げる（おもだか面高）という意味が「をかし」いと、感じたようです。

家紋が入った箱提灯
「丸に三つ違い沢瀉」

河澄家の家紋

丸に三つ違い沢瀉

沢瀉
矢じり形の葉柄

儚く散る花弁

かわずみ家 vol.29
2024年8月発行 NEWS LETTER 発行・企画／株式会社アスウェル 〒583-0876 大阪府羽曳野市伊賀5丁目1番4号

河澄家の家紋
丸に三つ違い沢瀉

2024年8月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

沢瀉は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似てることから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性がございます。詳しくはお問合せください。

昔の道具展 2024 お膳が語る食文化

5/18（土）～9/23（祝）

河澄家に伝わる昔の道具を紹介しながら、昔の暮らしを知ってもらおうと、毎年、蔵で民具の展示をしています。所蔵する約1200点の民具の種別は、衣食住をはじめ生業、運搬通信、団体生活、儀礼、信仰・行事、装飾・趣味など多岐にわたっています。

本年度は「お膳が語る食文化」と題し、旧河澄家所蔵の「膳」を中心に展示します。

見学無料

立体切紙キリッタイ Kirittai 展

7/27（土）～8/25（日）

創作立体切紙作家 大東守さんの作品を展示する「立体切紙キリッタイ Kirittai 展」

大東さんは、頭の中で立体を想像しながら、平面の型紙を速やかに切り出します。いつも本当に驚かされます。一枚の紙から生まれる精巧な昆虫や動物、恐竜など「kirittai（キリッタイ）」の魅力溢れるキリッタイ作品の世界をぜひお楽しみください。

見学無料

細密切り絵展

8/30（金）～9/23（祝）

大阪や奈良の風景や風物を「切り絵」によって表現している切り絵作家 酒井南斎さんの作品を展示する「細密切り絵展」

酒井さんは、細かな下絵を作成し、黒画用紙に転写し、カッターで切り抜きます。色付けは、色紙や色和紙を利用し、切り抜いた部分に色を裏から貼り付けます。細密で、緻密な切り絵作品をぜひこの機会にご覧ください。

参加無料

論語の素読会

毎月 第2・第4 土曜日

声に出して文字を読む「素読」。

素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言語をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。

参加無料

東大阪市指定文化財 旧河澄家（きゅうかわずみけ）

見学無料

所在地	〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号	TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ	http://www.kyu-kawazumike.jp
開館時間	午前9時30分～午後4時30分
休館日	月曜日（祝日の場合は翌日） 祝日の翌日・12月29日～1月3日
入館料	無料
駐車場	5台（無料） 満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

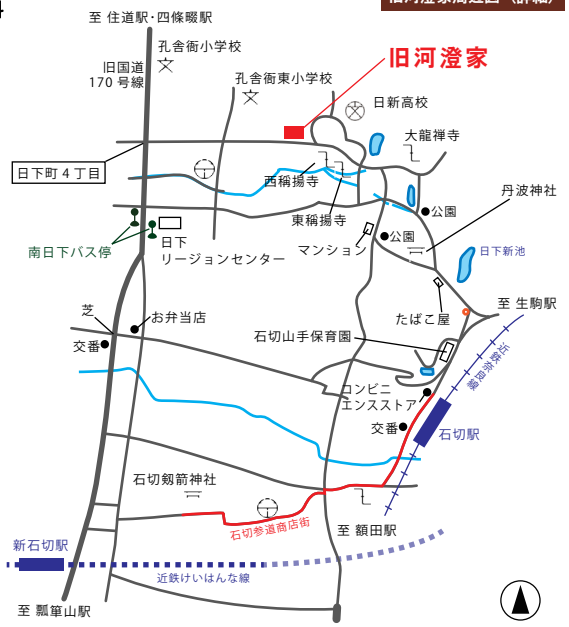
公共交通機関をご利用の場合

- 近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
- 近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約25分
- 近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条畷行き」または「住道行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩15分
- JR学研都市線「住道駅」または「四条畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合

- 旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

旧河澄家周辺図（詳細）



◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL：072-939-7861 FAX：072-952-4340

URL http://www.asuwell.co.jp
E-mail mail@asuwell.co.jp

株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。

JISQ9001:2015(ISO9001:2015)/ 全事業所
JISQ14001:2015(ISO14001:2015)/ 全事業所
建物総合清掃保全管理・施設保守管理・建築物・衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理